

平成 24 年度中間決算の概要について

平成 24 年 12 月 13 日
一般社団法人 第二地方銀行協会

会員行の平成 24 年度中間決算（単体）の概要は以下のとおり。

（注）計数は平成 24 年 9 月末時点の会員行 41 行ベース（特記ある場合を除く）。

1. 損益概況（業務純益：1,830億円、経常利益：962億円、中間純利益：697億円）

平成 24 年度中間決算の業務純益は、資金利益が減益となったものの、国債等債券関係損益の増益、経費の減少および一般貸倒引当金戻入額の増加により、1,830 億円と前年同期比+64 億円、+3.6%の増益となった。

経常利益は、株式等関係損益の赤字の拡大、個別貸倒引当金繰入額の増加等を主因に 962 億円と同△96 億円、△9.1%の減益となった。

中間純利益は、697 億円と前年同期比ほぼ横ばい（同△1 億円、△0.1%）となった。

2. 業務純益の状況

(1) 資金利益（4,494 億円、前年同期比△141 億円、△3.0%）

資金利益は、前年同期比△141 億円、△3.0%減益の 4,494 億円となった。

この内訳をみると、預貸金収支は、貸出金残高（平残）は増加したものの、預貸金粗利鞘の縮小により、同△134 億円、△3.5%減少して 3,731 億円となった。

また、有価証券利息配当金は、805 億円と横ばい（同△3 億円、△0.4%）となった。

(2) 役務取引等利益（317 億円、前年同期比△1 億円、△0.3%）

役務取引等利益は、投信窓販業務手数料が減少したものの、保険窓販業務手数料が増加したことにより、前年同期比ほぼ横ばい（△1 億円、△0.3%）の 317 億円となった。

(3) その他業務利益（444 億円、前年同期比+116 億円、+35.4%）

その他業務利益は、国債等債券売却益の増加等を主因に、前年同期比+116 億円、+35.4%増益の 444 億円となった。

(4) 経費（3,579 億円、前年同期比△44 億円、△1.2%）

経費は、3,579 億円と前年同期比△44 億円、△1.2%の減少となった。

3. 不良債権処理の状況

不良債権処理額は、316 億円と前年同期比+10 億円、+3.3%の若干の増加となった。

また、金融再生法開示債権(破産更生等債権、危険債権、要管理債権)は、危険債権および要管理債権は増加したものの、倒産件数の減少等を主因に破産更生等債権が減少したため、前年度末比△18 億円、△0.1%減少して 1 兆 6,969 億円となり、開示債権比率も同△0.02%[°] 引ト低下して 3.77%となった。

4. 経常利益および中間純利益の状況

経常利益は、業務純益が増益となったものの、株式等関係損益の赤字の拡大、個別貸倒引当金繰入額の増加等を主因に、962 億円と前年同期比△96 億円、△9.1%の減益となった。

中間純利益は、経常利益が減益となったものの、697 億円と横ばいとなった。

5. 単体自己資本比率[国内基準 40 行](自己資本比率:10.55%、Tier I 比率:8.41%)

単体自己資本比率は、中間純利益による利益剰余金の積み上げ等により自己資本額が増加し、リスクアセットがほぼ横ばいであったことから、前年度末比+0.15%[°] 引ト上昇し、10.55%となった。

また、Tier I 比率は、同+0.16%[°] 引ト上昇し、8.41%となった。

6. 預金および貸出金(末残)

(1) 預金(59兆4,082億円)

預金(末残)は、前年同期末比+1兆5,309億円、+2.6%増加して59兆4,082億円となった。要求払預金を中心に一般法人預金および個人預金とも増加した。

(2) 貸出金(44兆4,412億円)

貸出金(末残)は、前年同期末比+9,166億円、+2.1%増加して44兆4,412億円となった。

以 上